



地図作品展に作品を出そう

帝国書院広報室



■地図作品展とは？

毎年、10を超える県や市で、子どもたちの手作り地図を集めた作品展「地図作品展」が開催されています。私たちは、これら地図作品展は「地図の学力」向上のために大変有益な活動であると思います。ですから、より多くの先生方、子どもたちに地図作品展をお知らせして作品を作ってほしいと考えています。そこで、まず、地図作品展と作品作りの効果について簡単な紹介をしたいと思います。

■地図作りで育まれる能力

何故、地図作品展が有益なのか。それは、手作り地図の作成を通して、次のような資質や能力を育むことができるからです。

○地図の基本的なスキルの習得

地図の読み方や使い方の基礎である、方位・縮尺・地図記号・凡例・位置関係の把握・地図を読む力など、体験を通して身につけることができます。こうした能力は社会科の基礎知識となるだけでなく、生活するうえでも役立つ「生きる力」につながります。

○身近な地域への理解

調べる活動を通して、身近な地域への理解が深まります。自分の手や足を使って調べることで、その地域のことをより深く知ることができます。頭の中の地図（メンタルマップ）もはっきりしたものとなり、自分のもつ地域像や世界像がより豊かになります。地域や社会事象への興味・関心の喚起や、地域に対する愛情を育むことにもつながるのです。

○思考力・判断力・表現力の育成

平成23（2011）年実施の新学習指導要領では、思考力・判断力・表現力を確実に育むために、地図の読図・作図や、地図を活用した論述を重視しています。地域の課題を見つけ、調査し、結果を地図にまとめ、発表するという活動は、これらの能力の育成につながります。

また、調査結果を地図化することで、それまでは点でしかわからなかった事象が、面的な広がりをもってとらえることができるようになります。事象の分布を比較したり、関連づけたりすることで、考察も深まっていきます。手作り地図の作成は、体験を通して論理的思考力の育成に寄与する学習活動なのです。

○コミュニケーション能力の育成

調査活動を通し、幅広く地域の人々と関わりあいをもつ中で、コミュニケーション能力など、社会的能力を育むこともできます。

■地図作品展の取材から

2008年度に取材を行った地図作品展の中から二つを紹介します。

○私たちの身のまわりの環境地図作品展（旭川市）



私たちの身のまわりの環境地図作品展（旭川市）のようす

日本全国からの応募を受けつけている唯一の地図作品展であり、応募点数が1400点にもよる国内最大規模の作品展です。北海道以外の地域からの出品も多く、年々参加校が増加しています。とくに首都圏の学校の参加が増えてきているようです。また中国をはじめとする海外からの応募もある、国際色豊かな地図作品展です。

主催の環境地図教育研究会では、作品展の開催の他にも、北海道教育大学旭川校の学生が主体となって、「環境地図ワークショップ」などさまざまな企画を催しています。

○鳥取県児童生徒地域地図発表作品展

鳥取県地域社会研究会が主催している地図作品展です。実際に自分で地域のことを観察・調査したものが対象となるので、子どもたちの努力が見えてくる作品が多数展示されています。模造紙1枚という制約の中で工夫しながら作られる地図作品は、作者のおすすめの公園や場所の紹介や、身近な地域の課題に深くせまるような作品が見られ、郷土への愛情が強く感じられる作品展となっています。

■手作り地図の作り方

手作り地図の作成において大事なことは、やはりオリジナリティのある地図を作ることではないでしょうか？ 一口にオリジナリティといっても、テーマ選び、調査方法、地図への表現方法と、さまざまな過程で表現することができます。

こうした地図作りのためには、教室にさまざまな地図を掲示しておくなど、日頃から地図に接することができる環境作りも大切です。また、他人のよい作品を見ることも大変参考になります。自分にはなかった着眼点や表現方法を知ることができ、自分の地図作りに活かすことができます。本号の付録「地図作品展ポスター」で、各地の作品展の優秀作

品を紹介しています。廊下や教室などに掲示して、ご活用いただければ幸いです。

最近の地図作品展でよく見るおもしろいテーマの例としては、商店街の移り変わりを示し、課題やお客を増やす対策を考察した「商店街のようす」、実際に車イスに乗って障害者用の設備を検証する「バリアフリー調査」、消火器・消火栓の分布や、不審者が出やすいところを調べた「地域の防災や安全調査」など、時代に合った作品が出てきています。

調査方法では、歩幅で距離を測ったり、耳で音を聞いて地図にしたり、鼻でにおいを調べるなど、五感を活用して調査するおもしろい地図も見られるようになってきました。

地図への表現方法では、市販の色つきシールで凡例を工夫したり、自分でオリジナル地図記号を作って表現したりするなど、子どもたちのアイデアをいたるところで感じます。

手作り地図の作成は、夏休み期間に行われることがほとんどです。ですから、夏休みの自由研究課題の一つとして「手作り地図の作成」を提示し、夏休み前に地図の作り方の簡単な指導を行うなど、子どもたちを地図作りへと向かわせる指導は必要不可欠でしょう。

詳しい手作り地図の作り方は、弊社ホームページ「How to 地図活用」でも紹介していきたいと、現在作成中です（5月完成予定）。指導の際の一助にいただければ幸いです。



手作り地図の作成は、子どもたちにとって、地図の基本を身につけ、社会への興味・関心を高め、郷土への愛情が深める、まさに生きた学習となります。地図作りを通して学習したことは、一生の財産になるでしょう。

全国にこの地図作品展の輪が広がっていくことを、私たちは切に願っています。先生方のご指導、ご協力を何卒よろしく願いいたします。